

平成26年11月吉日

各 位

一般社団法人 J C 総研

〒162-0826

東京都新宿区市谷船河原町 11 番地

飯田橋レインボービル 5 階

電話：03-6280-7254

一般社団法人 J C 総研
第 36 回公開研究会について（ご案内）

拝 啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃当研究所の事業につきまして格別のご指導・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当研究所では協同組合研究誌『にじ』2015年春号にて「協同組合における『参加』のあり方を考える～参加型社会の構築に向けた協同組合の役割と課題～」をテーマに特集を企画しております。その前段として協同組合研究者・実践家等との間で幅広く意見交換し議論を深めるため、下記のとおり公開研究会（第36回）を開催することとしました。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 開催日時：平成26年 12月13日(土) 13:00～18:00
2. 開催場所：日本教育会館9階 第5会議室（千代田区一ツ橋）
【注】今回の会場はいつもと異なりますので、ご注意ください。
3. 研究課題：「協同組合における『参加』のあり方を考える～参加型社会の構築に向けた協同組合の役割と課題～」
4. 報 告：
 - ・第1報告「地域に埋もれる力を活かす『参加と活躍の場づくり』～秋田県・藤里町社会福祉協議会の『ひきこもり・不就労・障害者等』の社会復帰の取組み～」（仮題）
報告者 菊池 まゆみ 氏（秋田県・藤里町社会福祉協議会 常務理事兼上席事務局長）
 - ・第2報告「山口県・(株)三見シーマザーズの地域を元気にする取組み～『何もしなければ三見は消える』～」（仮題）
報告者 三木 奈都子 氏（水産大学校 教授）
 - ・第3報告「JAにみる緩やかな組合員参加と事業活動」（仮題）
報告者 石田 正昭 氏（三重大学 招へい教授）
5. 参集範囲：協同組合運動の研究者、協同組合・関係団体の役職員等
6. 事務局：河原林 孝由基 tel: 03-6280-7289 Eメール: t-kawarabayashi@jc-so-ken.or.jp
伊藤 辰代 tel: 03-6280-7229 Eメール: t-ito@jc-so-ken.or.jp

以上

・第1報告 「地域に埋もれる力を活かす『参加と活躍の場づくり』～秋田県・藤里町社会福祉協議会の『ひきこもり・不就労・障害者等』の社会復帰の取組み～」(仮題)

報告者 菊池 まゆみ 氏(秋田県・藤里町社会福祉協議会 常務理事兼上席事務局長)

(報告内容(予定))

秋田県・藤里町は人口3,709人。同町社会福祉協議会が行った3年間の調査で18歳から55歳人口1,293人のうち113人が長年にわたって仕事に就けない状態で引きこもっていることが分かった。社協は2010年以降町役場の協力も得て引きこもっていた人たちや不就労、障害者等を対象とした就労支援の取組みを進める。これまでの4年間の取組みで113人のうち60人が引きこもりから脱し、35人以上が一般就労が可能となった。この『ひきこもり・不就労・障害者等』の社会復帰の取組みは社会参加(就労)から排除された人たちを支援するものであるが、そこには支援する側と支援される側がその立場を乗り越えて『参加と活躍の場づくり』を共有する取組みに発展している。こうした取組みを始めるに至った経過、現状と課題を紹介いただく。

・第2報告 「山口県・(株)三見シーマザーズの地域を元気にする取組み～『何もしなければ三見は消える』～」(仮題)

報告者 三木 奈都子 氏(水産大学校 教授)

(報告内容(予定))

山口県漁協三見支店女性部が1990年代半ばから取り組んでいた高齢者とふれあうイベント「いきいきサロン」。高齢者を対象とした地元の魚や食材を使った弁当配達事業。そして、2010年、(株)三見シーマザーズを立ち上げ、道の駅「萩・さんさん三見」でのレストラン開設。

一連の取組みでは漁協女性部有志が「高齢者と触れ合うイベント」で発見された課題の解決に乗り出し(=高齢者食事宅配)、さらには地元で市場価値がない魚の加価値販売をおこなうとともに、新たな雇用も生み出すという取組みにまで発展してきている。この取組みを紹介いただきながら、①漁協女性部(有志)は何故、『何もしなければ三見は消える』という危機意識を持ったのか、②地域課題発見とその解決において漁村女性の主体的な参加が可能となった背景は何か、③こうした取組みは漁村にどのような変化を生んだか、④さらに協同組合(漁協・農協も関連)との関わり、⑤本取組みにかかる今後の課題は何か、などについて明らかにしていただく。

・第3報告 「JAにみる緩やかな組合員参加と事業活動」(仮題)

報告者 石田 正昭 氏(三重大学 招へい教授)

(報告内容(予定))

団塊の世代が65歳を超えはじめ、多くの定年退職者が増加している。特に会社人間だった男性ほど地域に溶け込めず、「朝起きてやることがない、行くところが無い」「何かやろうとしてもやり方がわからない、どういう仲間に入っているのか」と悩み、結果として家にこもりがちになるケースが少なくないと言われている。一方でJAは「年金友の会」や「家庭菜園講習会」、さらには「男の居場所講座」(JAなすの)のようにまだまだ元気な団塊シニアを対象に「趣味を生かし、活躍の場を提供する」様々な取組みを進めている。こうした取組みは地域で生き活きと住み続ける場を提供することを通じて、団塊シニアが地域づくりの主人公となりうることや、JAとの結びつき強化で事業利用拡大に繋がる可能性をも秘めている。JAと組合員(団塊シニア)との緩やかな参加にかかる先行・優良事例を紹介しながら、協同組合と組合員の関係、運動と事業における新たな組合員参加の展開方向を示唆していただく。

(※注) 上記報告内容(予定)は、JC総研事務局から各報告者に依頼した内容です。実際の報告内容と異なる可能性もありますので、あらかじめご承知おきください。